

## 南和歌山医療センター（内科）の研修報告

2007年4月～6月 下角 あい子

### <概要>

場所：田辺市。白浜のすぐ近くの丘の上。（紀三井寺から車で1時間40分位）

研修科：内科（医師は3人で、それぞれ血液内科・肝臓・糖尿病が専門。和医大研修医は血液内科の先生に教わることになると思います。）

他の研修医：1学年1人ずつ+京都から歯科医が麻酔科研修として1-2人来ている。

### <環境>

当直：基本的になし。（ライター先生の副院長なので免除されている）

救急当直をしたいなら、救急の川崎先生や外科の川副先生に伝えるとさせてくれる。

土日：ライターの先生との兼ね合いで決まるが、基本的に隔週で病棟係り。

（血液内科では、常に1-2人は終末期医療となっている・・・）

オーダーリング：医大とは少し違いますが、同じFUJITSUなのですぐに慣れる。

住居：かなり狭いが敷地内に宿舎あり。

冷蔵庫、エアコン、テレビ、ベッド、デスク、ゴミ箱などがついてました。

食事会：ライターの先生は忙しくあまりご一緒する機会はなかったですが、他の先生（他科含）とは毎日のように食事会をしていました。

### <症例>

主治医として担当した症例：44例（一般病棟43例、緩和ケア病棟1例）

うち、血液疾患31症例

悪性リンパ腫：10例、白血病：8例、MDS：4例、ITP：4例、

多発性骨髄腫：3例、血小板増多症：2例

その他として、糖尿病：2例（共観でのDMコントロールは多数）、

不明熱：2例、SLE：2例

以下1例

- ・皮膚筋炎
- ・ヘルペス性脊髄根炎
- ・高Ca血症
- ・ウイルス感染による血小板低下
- ・高血圧
- ・前立腺癌によるリンパ節腫大
- ・多発性線維筋痛症

血液疾患が多いように感じるとは思いますが、実際の血液疾患の患者さんは合併症が多く、重症肺炎やDIC、吐血、難治性鼻出血など、同時にさまざまな症例に出会います。

- ・診断から治療まで一貫して行えます。
- ・患者さんのライフスタイルにあった治療・入院計画を練る勉強になります。
- ・緩和ケアも勉強できます。

### <手技>

- ・採血：看護師さんがしてくれる。
- ・ルート確保：抗がん剤や造影のルートは研修医の仕事です。
- ・骨髄穿刺：週に2～3回。
- ・中心静脈穿刺：月に2～3回。
- ・その他、腰椎穿刺や胸腔穿刺、希望で救急のopや麻酔も可。ERでナートや診察もしました。